

ドローンにレーザー搭載

森林管理の手間省く

ドローンを使い森林を調査する精密林業計測(長野県南箕輪村)は10月、レーザーを搭載して樹木を詳細に調べられるドローンを導入する。行政や林業事業者による森林の間伐計画作成などの効率化需要を狙う。既に同様のサービスを始めている測量会社もあるため、森林管理需要の取り込みを始める。



精密林業計測 樹木詳細に調査

樹木が密集している場所でもレーザーは樹木の隙間から地表に届くため、樹木の高さや直径、容積など詳細なデータも得られ、森林資源を正確にはじき出す。同社は現在持っている普及型ドローンの購入費用は25万円程度。森林の上空から写真を複数枚撮影し、自治体などがあらかじめ航空機からのレーザー測量で出していた地盤データと組み合わせると森林資源を算出する。航空レーザーのデータがない地域ではレーザーセンサー搭載ドローンを持っている測量業者に委託している。

同社はこれまでデモンストレーションを含めて6県で普及型ドローンを林業に活用しているが、竹中悠輝社長によると「レーザー搭載ドローンによる計測を試してみた」という。19年4月以降に本格的に投入する計画だ。

レーザーを搭載したドローンで樹木の高さなど詳細なデータを得られる

同社は17年に信州大学発のベンチャー企業として設立された。長野県が進める林業の効率化普及事業や、伊那市の松枯れ被害対策事業に協力している。

子育て情報誌サンメディックス 転職支援事業に参入

子育て情報誌のサンメディックス(長野市)は「サービス名は「emi(エミタス)」。有料職業紹介事業の許可を得た。専任の相談員が転職希望者の相談を受けて企業に人材を紹介し、企業から手数料を得る。転職

「monami(モナミ)」を2013年に創刊。子育てする母親向けのイベントなどを開いている。職業紹介事業への参入で、就職面からも子育て世代への支援を強化する狙い。

政策進捗、評価「C」

13~17年度 県、審議

り、相談者(心)にききめ、相談は夜間や土日も予約